

スクールのホッパライオン

「卒業生を送る会」

from 豊山小学校

二月二十七日(金)、豊山小学校では「卒業生を送る会」を行いました。この行事は、伝統的に五年生の児童が企画・進行を主体的に務め、六年生への感謝とお祝いの気持ちを表します。六年生の門出であるとともに、五年生の大舞台へのデビューでもあるのです。

始まりは、卒業生一人一人が名前を呼ばれ、舞台正面の幕間から一年生と手をつないで入場しました。入場後には、一年生からメッセージカードのプレゼントがありました。縦割り班活動でお世話になった在校生からのお礼の手紙と写真で彩られているのです。

次に、六年間の思い出のアルバムがスクリーンに大きく映し出され、六年間の出来事を振り返りました。小さかった自分たちを見て、改めて自分たちの成長を実感していました。

卒業生へのインタビューでは、「豊山小学校での思い出は?」「将来の夢は?」「中学校で頑張りたいことは?」などの質問に、しっかりと自分の思いを発表しました。そんな卒業生に対し、在校生が感謝の気持ちを込めて「翼をください」を歌いました。卒業生は、さまざまな思いを胸に、リコーダーで「鳥唄」を披露してくれました。その演奏には在校生も聴き入っていました。

最後は、在校生が花のアーチで花道を作り、キャンドルサービスで「ありがとう」の曲に合わせて卒業生が退場しました。

た。

「豊山小の火」はしっかりと在校生に受け継がれました。豊山小学校全校児童の心が一つになったすばらしい「卒業生を送る会」でした。



第百七十七話

仏鬼山の思い出

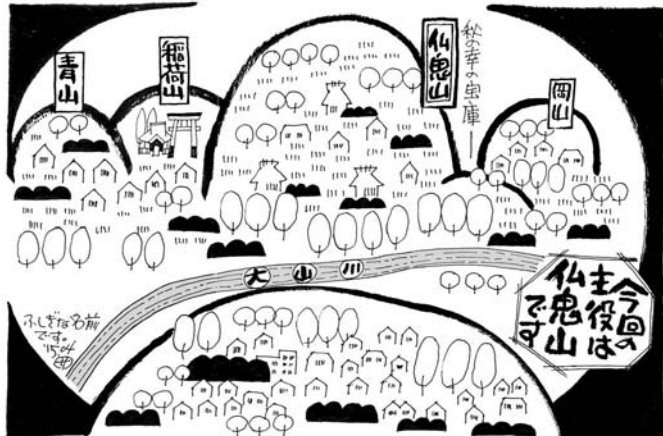
神明公園は、土曜日と日曜日ははじめ、平日でも朝夕はとも多くの人でにぎわっています。小高い人工の丘が二つありますが、これは昭和十七年に陸軍小牧飛行場ができる前にあった山を模したものです。一つは皆がよく知っている岡山であり、もう一つは仏鬼山を模したものです。

岡山はよく取り上げられますが、仏鬼山にも人が住んでいました。

仏鬼山には、庵主様の家や民家など七世帯がありました。家と家の間には、開墾の畑や桑畑、竹やぶ、松林、草地があつてのんびりした山家風の別天地でした。

仏鬼山やその周囲の田んぼは、青山の綿屋さんと春日井の石黒さんが大地主でした。稲荷山には稲荷社があり、お寺もあつて小さな集落のかけ合ひが出来ていました。集落の付き合ひは一丁と隔たない春日井の原と親しくして、行事の祭りや念仏は同盟して行いました。村祭りは青山と合流していましたが、生活の方便だったのでしよう。

また、竹やぶは良質の竹を産出して、売買されてきました。秋になると今では高価な松茸や、おいしいシメジ、青はち、松露などのきのこ狩りに来る人もありました。



落葉の頃には、枯松葉集めに来る人もありました。そのように仏鬼山は秋の幸がごろごろしていたものです。児童生徒は遠足に来ることもありました。山の西側を裏坂と言いましたが、急な坂道の傍らには雑木の中に長い草が生い茂っていて、こわいようなところでしたが、そこを通り抜けると、青山へ通じる道がありました。今は昔の物語です。(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)

まなびすと